木を見て森をも見る経営者へ ~システム思考が企業を強くする~

一般社団法人日本経営士会会員 株式会社かのん 山本カオル

経営をしていると、「同じ問題が繰り返される」「手を打っても根本的に解決しない」と感じる場面を感じませんか?売上、人材、組織づくり…。どの課題も一見バラバラに見えますが、実は背後でつながっている"構造"があります。この構造を捉える力こそが、度々注目されている「システム思考」です。



システム思考とは、出来事を点で捉えるのではなく、パターン・構造・マインドセットまで掘り下げて全体像を理解しようとする思考法です。たとえば「離職率が高い」という現象があったとします。表面的には「給与を上げればいい」「福利厚生を増やせばいい」と考えがちです。しかし、根っこにあるのは「成長実感がない」「コミュニケーションが不足している」といった組織文化の構造かもしれません。そこに気づかなければ、一時的に人は残っても、また同じ課題が顔を出すでしょう。

システム思考の特徴は、人に原因を求めず、システムつまり、"因果関係のループ"に焦点を当てる事です。例えば、「売上が伸びない→広告費を増やす→短期的に成果→疲弊した社員が辞める→サービス品質が低下→売上が下がる」という悪循環を図解すれば、一目で問題の本質が見えます。逆に「社員の成長を支援→モチベーション向上→サービス品質向上→顧客満足→売上増加→さらに投資できる」という好循環も描けます。経営者がこの視点を持つことで、表面的な対症療法ではなく、構造からの抜本的解決が可能になるのです。

大切なのは、「出来事に反応する社長」から「構造を設計する社長」へと役割をシフトすること。 経営者は日々多忙ですが、だからこそ"木を見て森も見る"時間を意識的に取る必要があります。 社員や顧客の声、数字の変化、日々の小さな出来事を「点」として受け取るのではなく、線や面に して関連づける。そうすることで「本当に手を打つべき場所」が見えてきます。

このように、目の前の出来事に追われるのではなく、構造をデザインする視点を持つことをお勧めいたします。そうすれば、企業は持続的に成長し、経営者自身も確かな安心感と手応えを得られるはずです。

とは言え、複雑に絡み合った構造は、時には難解に感じたり、客観的に分析できないこともあります。そんな時は、外部の専門家を利用してみてください。私たち、経営士も、しっかりと構造のデザインを支援し、企業の業績に貢献していきます。

* 引用 https://www.change-agent.jp/systemsthinking/approach/the_iceberg_model.html

以上

⊘一般社団法人日本 程 営 士 会